

博物館を出て、ホテルに戻る途中スーパーに立ち寄り買い物をした。店内は綺麗にディスプレイされ、品揃えも豊富であった。日本のカップヌードルやみそ、醤油なども販売されていた。カップヌードルは日本円で約400円だったと思う。現地の人にしてみれば高価な品物だが、毎回同じような食事をしている我々にとって、400円の焼きそば弁当は決して高い買い物ではなかった。

ホテルに戻り、30分ほど休憩して18時00分頃夕食へ向かう。



レストラン前の道路、写真左側に住宅らしき建物が見える。建物の多くは1階が店舗になっているらしく広告看板が掲示されている。しかし、我々には外から何を販売している店なのかは判らない。



レストラン「Masuter and Margarita」

本日の夕食は、レストラン「Masuter and Margarita」である。店内のスペースは十分に広がったのであるが、テーブルの配置が窮屈で、肩を寄せ合って食事をするような感じであった。



毎回同じメニュー

食事終了後、幸子さんの案内で日本人が経営するクラブ「カサブランカ」まで、ユジノの夜道を全員で歩いて行った。

夜間の一人歩きは危険だと聞いていたが、これだけの数の日本人がぞろぞろと歩く光景を見て、もしかしたら、すれ違うユジノの人達のほうが危険と感じたかもしれない・・・とりあえず、2日目も無事終了した。

10月20日(木) 晴れ

今朝も冷え込みが厳しく、気温は体感的にプラスの5～6に感じられた。夜露でホテル前の舗装道路が濡れている。

ユジノの空は快晴で、現場の視察を行うには最良の天気である。



9時にホテルを出発し、プリゴロドノエ地区にある天然ガス液化プラント建設現場へ向かう。ユジノからコルサコフ迄の距離は約42km(舗装道路)。その先、プリゴロドノエの現場は、コルサコフからさらに東へ約15キロメートル(全線砂利道)の場所にある。バスの古さも手伝ってか車内はほこりだらけとなって現地に到着した。



10時15分 C T S D社に到着



事務所内廊下の壁一面に掲示された、労働安全関係資料



英語とロシア語で表記されている。

到着後、CTSD社からのプラント概要説明を受ける。



尚、プロジェクトの位置図、完成予想図については、今年6月に富田団長が作成した「2005年 サハリン日誌」の中で詳細に掲載されているため、本報告書では割愛させていただきます。

【プロジェクト概要】

対象鉱区： サハリン島北端沖合い
・ピルトフ・アストフスコエ鉱区（原油）
・ルンスコエ鉱区（天然ガス）

開発計画： 1999年7月から原油の商業生産開始
2007年からLNG輸送を開始

生産量： 原油 日量 18万バレル
LNG 年間 900万ト

以下概略

この事業はサハリン2プロジェクトの一環であり、サハリン・エナジー社によるもので、サハリンエナジー社は(出資企業)ロイヤル・ダッチ・シェル社55%、三井物産25%、三菱商事20%で構成されている。また、元請けとしては、千代田化工建設(株)と東洋エンジニアリング(株)がロシア企業と共同でサハリンエナジー社から受注しており受注額は約3,000億円を超えられている。

一次下請けとしてケーマンカシマ(鹿島建設)と東亜道路等が施工しており合弁会社のワッコールも二次下請けとしてこのプロジェクトに参画している。

プラントの敷地面積は300ha(東西2km、南北1.5km)と広大であるが、現場内は現在、工事が盛んに行われており、世界的なプロジェクトだけあって各国の技術者が数多く働いていた。

LNGの貯蔵タンクの建設も順調に進んでいる。5月に工場の基幹設備である超低温熱交換器がドイツから届き、据え付け作業がほぼ完了している。

工場の第1生産ラインは2007年7月、第2生産ラインは2008年2月に稼働する予定となっていたが若干遅れているようだ。



ドイツ製の低温熱交換機

工事に従事している国(地域)別内訳は、23%が地元コルサコフ地区の住民で、24%がサハリンの他の地域、8%が極東地域、27%がロシアのそれ以外の地域、18%が外国人などで、約6,800人が従事している。



作業員宿舎



スーパーバイザー用宿舎の室内(写真提供:ワッコル)